

戦没者追悼・平和祈念のことば

本日ここに飯塚市長様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席をたまり、出雲市戦没者追悼・平和記念式典が厳粛に行われるにあたり、出雲市遺族会を代表いたしまして、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

早いもので、先の大戦が終わりを告げて今年で80年の歳月が流れました。この戦争によって、我が国で310万人、出雲市において6,244人もの尊い命が失われました。

私の親父の兄は、昭和20年6月、沖縄戦において26歳で戦死しました。80年前の沖縄では、住民を巻き込んだ凄惨な戦いが繰り広げられ、20万人余りの命が犠牲になったとされています。今年6月テレビで「沖縄全戦没者追悼式」が中継されていました。その式典の模様や、画面に映し出された美しい沖縄の風景を見ておきますと、26歳の若さで激戦に散った叔父の無念の思い、残された家族の尽きることない深い悲しみと口惜しさがこみ上げ、胸が苦しくなりました。

戦後、時は流れ、日本は平和を願う人々のたゆみない努力によって苦境から立ち上がり、目覚ましい経済発展をとげ、平和で安定した国家となりました。今日、私たちがあたりまえのように享受している平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い命と苦難の歴史の上に築かれたものであることを、決して忘れてはなりません。

国際情勢に目を向けますと、いま世界各地で戦争・紛争が起きています。戦争・紛争は、悲しみや苦しみを生み、人々の大切な命や未来を奪い去っていきます。戦争のない平和な社会がどんなに大切か、人の命がどんなに尊いか、私たち遺族は、身に染みて分かっております。

私たち遺族会は、高齢化が進むなかですが、戦争の悲惨さと平和の尊さ、命の尊さを若い世代に語り継ぎ、二度と我々のような戦没者家族を出さないよう取り組んで参りますことを、ここに、改めてお誓い申し上げます。

結びに、本日ここに ご英霊のご冥福とご参列の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げるとともに、出雲市戦没者追悼・平和祈念式典を開催していただきましたことに深く感謝を申しあげ、追悼のことばといたします。

令和7年8月3日 出雲市遺族会 会長 山代 裕始